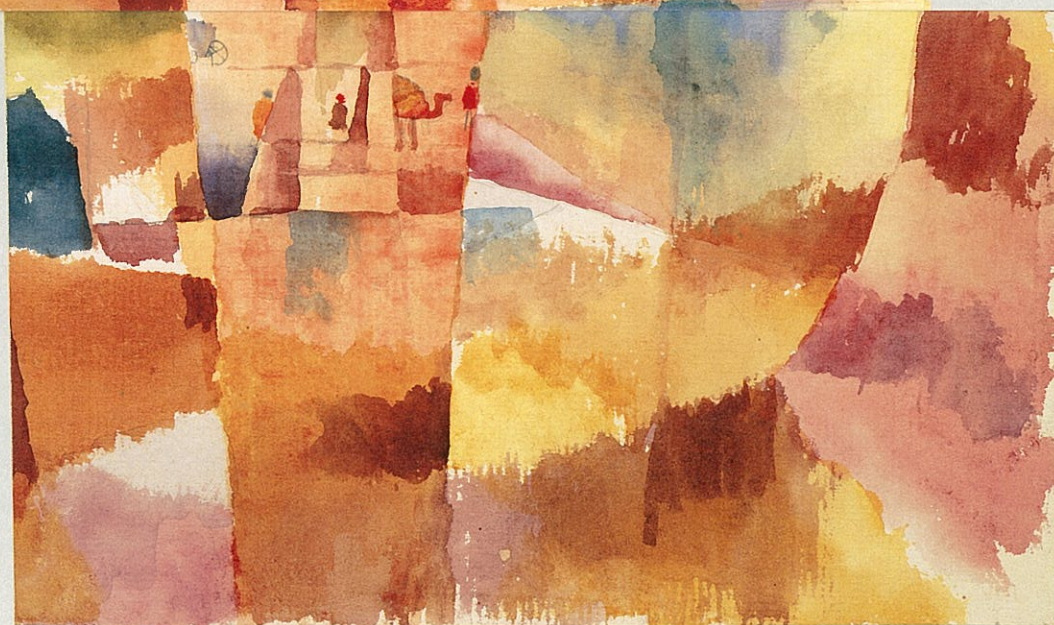


パウル・クレー | おわらないアトリエ

2011年3月12日[土] — 5月15日[日]

京都国立近代美術館 [岡崎公園内]



【開館時間】午前9時30分—午後5時(金曜日は午後8時まで開館)入館は閉館30分前まで

【休館日】月曜日(ただし3月21日[月・祝]と5月2日[月]は開館、3月22日[火]は休館)

【主催】京都国立近代美術館、日本経済新聞社、京都新聞社

【後援】スイス大使館、テレビ大阪 [協賛] 損保ジャパン、大日本印刷、東レ

【協力】パウル・クレー・センター、スイス インターナショナル エアラインズ、日本航空、スイス政府観光局

パウル・クレー | おわらないアトリエ

スイス生まれの画家パウル・クレー [Paul Klee, 1879–1940] は、長らく日本人々に愛され、これまでもに数多くの展覧会が開催されてきました。「創造の物語」や「旅のシンフォニー」または「線と色彩」などの副題が示すように、作品の物語性や制作上の理念が詩情豊かに詠われたそれら展覧会は、多くの人々にクレー芸術の魅力を伝える大きな役割を果たしました。このたび、京都と東京の国立近代美術館で初めて開催されるクレー展では、今までの展覧会成果を踏まえた上で、これまでクローズアップされなかった観点、「クレー作品が物理的にどのように作られたか」について考えます。

クレーは1911年から終生、制作した作品のリストを作り続けました。1883年、画家4歳のときの作品を皮切りに約9600点余りの作品からなるこのリストには、作品のタイトルだけではなく、使用した材料や制作方法が記載されていることから、「どうやって作ったか」は、この芸術家にとって極めて重要な関心事だったのです。その「制作プ

01 | Making in der Gegenwart | Atelierbilder

現在／進行形 | アトリエの中の作品たち

クレーは生涯に5つの街にアトリエを構えます
(ミュンヘン、ヴァイマル、デッサウ、デュッセルドルフ、ベルン)。

アトリエそして住居の壁には、完成・未完成にかかわらず数多くの自作がかけられていました。それらアトリエの作品群は、多くは画家自身の手によって写真で記録されています。ここでは、そのアトリエ写真とそこにかけられていた作品を紹介し、さらには彼の最後のアトリエとなったベルンのアトリエのイメージを再現することで、制作中の画家の試行錯誤を検証します。

右 | 《パウル・クレーのアトリエ、ミュンヘン》1920 撮影 | パウル・クレー
Zentrum Paul Klee, Bern, Schenkung Familie Klee



02 | Prozess 1 | Ölpause

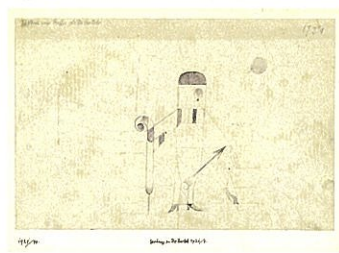
| プロセス 1 | 写して／塗って／写して | 油彩転写の作品

クレーが独自に生み出した技法に「油彩転写」があります。

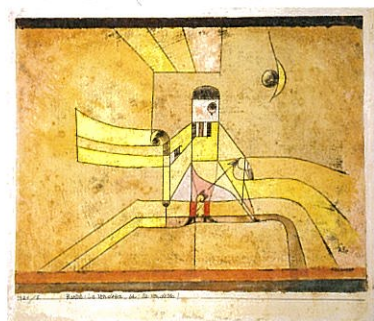
鉛筆やインクで描いた素描を、黒い油絵の具を塗った紙の上に置き、描線を針でなぞって転写した後、水彩絵の具で着色するという技法です。

さらにはそこから、リトグラフや油彩画が制作されることもありました。

ここでは、先行する素描と油彩転写画を対比することで、この素描と版画と彩色画の間を揺れ動くような技法の秘密に迫ります。



02|1



02|2

03 | Prozess 2 | Zerschnitten / Neukombiniert

| プロセス 2 | 切って／回して／貼って | 切断・再構成の作品

クレーはたびたび、とりあえず仕上げた作品を2つないしそれ以上の部分に分解し、そこから新たな作品を生み出しました。

ここでは、分解された断片を新たに組み合わせて再構成し、ひとつの基盤となる厚紙に貼り付けて作品とした事例を紹介します。

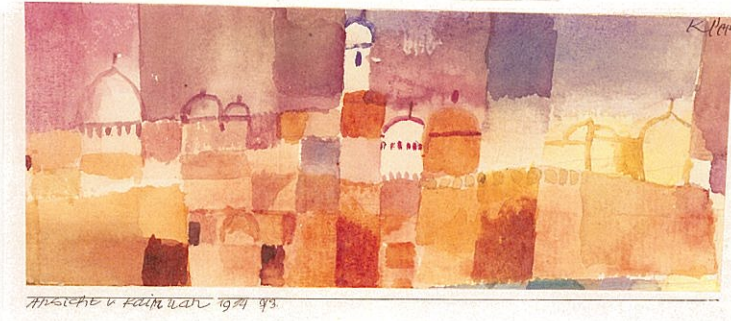
- 02|1 《ドクター・パルトロ (1921/5) のための素描》1921, 40
ペン・紙・厚紙 18.6×28.3cm、パウル・クレー・センター (ベルン)*
- 02|2 《パルトロ: 復習だ、おお!》1921, 5
油彩転写・水彩・紙・厚紙 24.4×31.2cm、個人蔵 (ベルン)*
- 03|1 《E. 附近の風景 (バイエルンにて)》1921, 182
油彩・ペン・紙・厚紙 49.8×35.2cm、パウル・クレー・センター (ベルン)
- 03|2 《〈卵のある〉》1917, 47
水彩・ペン・紙・厚紙 23.3×14.9cm、ベルリン国立博物館群、ナショナルギャラリー、シャルフ＝ゲルステンベルク・コレクション



03|1



03|2



04|1

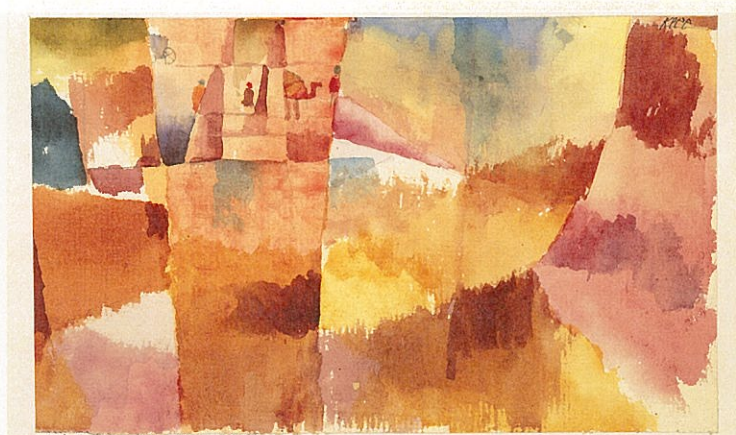
04 | Prozess 3 | Teilstücke

| プロセス 3 | 切って／分けて／貼って | 切断・分離の作品

先の章に引き続き、分解された後に新たに作られた作品を取り上げます。

ここでは、2つないしそれ以上に分解された部分が、組み合わされることなく、それぞれが独立した作品となった事例を、元のコンポジションの再構成とともに紹介します。

- 04|1 《カイルアンの眺め》1914, 73 [京都会場のみの出品]
水彩・鉛筆・紙・厚紙 8.4×21.1cm、個人蔵、フランク・マルク美術館 (コッペル・アム・ゼー) 寄託
- 04|2 《カイルアン、門の前で》1914, 72
水彩・鉛筆・紙・厚紙 13.5×22.0cm、ストックホルム近代美術館



04|2



04|3



04|4

05 | Prozess 4 | Recto / Verso

| プロセス 4 | おもて／うら／おもて | 両面の作品

あまり知られていなかったことですが、かなりのクレー作品の裏面には、何かが記されていたり描かれたりしています。

ここでは、作品の表と裏の関係を検証し、絵画が二次元的であるだけではなく、三次元的な存在でもありうる可能性を探ります。



05|1

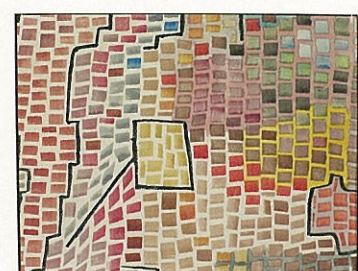


05|2

- 04|3 《平原の庭 II (園亭のある)》1920, 185
油彩・紙・厚紙 18.5×25.5cm、個人蔵、パウル・クレー・センター (ベルン) 寄託*
- 04|4 《平原の庭 I》1920, 184
油彩・紙・厚紙 18.0×25.4cm、ツィーグラール・コレクション財団、ミュルハイム・アン・デア・ルール美術館
- 05|1 《無題》1920 (…元来 04|3 の裏面)
油彩・厚紙 25.2×18.0cm、パウル・クレー・センター (ベルン)*
- 05|2 《考え込んで》1939, 918 (XX18)
水彩・色鉛筆・紙・厚紙 19.8×29.4cm、個人蔵、パウル・クレー・センター (ベルン) 寄託*
- 05|3 《調整された豊穡》1933, 28 (L8)
水彩・紙・厚紙 19.7×26.0cm、個人蔵 (ドイツ)
- 05|4 上記作品の裏面



05|3



05|4

06 | Making in der Vergangenheit | “Sonderklasse”

過去／進行形 | “特別クラス”の作品たち

クレーは、作品リストに記載した作品をある時点以降マーケティングの観点から8つのカテゴリーに分けています。

しかしそれらとは別に「特別クラス (Sonderklasse)」というカテゴリーを設け、その作品を非売として手元に遺しました。

自らの制作における試金石的ないし模範的作品と彼が考え、次の新たな作品を生み出す起爆材ともなった作品群を最後に紹介し、生涯にわたる画家の制作の軌跡をとらえ直します。

- 06|1 《山のカーニヴァル》1924, 114
水彩・糊下地・紙・厚紙 24.0×31.3cm、パウル・クレー・センター (ベルン)*

* | © Abteilung für Medientechnologie, Universität Bern, Archiv Zentrum Paul Klee, Bern



06|1



《パウル・クレーのアトリエ、ヴァイマル》1926 撮影：フェリックス・クレー(?) Zentrum Paul Klee, Bern, Schenkung Familie Klee

パウル・クレー

おわらないアトリエ

PAUL KLEE
Art in the Making 1893-1940

記念講演会

3月12日「土」午後2時—午後3時30分

「パウル・クレー——画のための仕事」

ヴォルフガング・ケルステン「チューリヒ大学教授」■ 逐語通訳付

4月30日「土」午後2時—午後3時30分

「切断の時代—20世紀美術におけるクレーの制作プロセス」

河本真理「広島大学大学院准教授」

会場「京都国立近代美術館1階講演室」

定員—100名 聴講無料 当日午前11時から受付にて整理券を配布します

ピアノダンス即興パフォーマンス

4月9日「土」午後2時—午後3時

高瀬アキ「アーティスト/作曲家」

岡登志子「アンサンブル・ゾネ主宰/振付家」

会場「京都国立近代美術館1階ロビー」

■ 詳細は決まり次第、漸次ホームページなどでお知らせします。

「交通案内」

■ JR・近鉄京都駅前(A-1のりば)から市バス5番
岩倉行「京都都会館美術館前」下車すぐ

■ JR・近鉄京都駅前(D-1のりば)から市バス100番
(急行)銀閣寺行「京都都会館美術館前」下車すぐ

■ 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番
岩倉行「京都都会館美術館前」下車すぐ

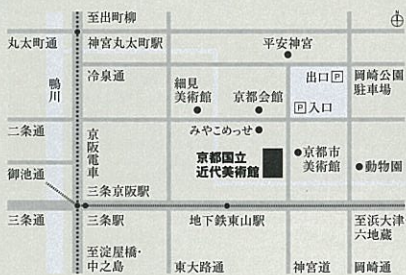
■ 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス
46番平安神宮行「京都都会館美術館前」下車すぐ

■ 市バス他系統「東山2条」又は「京都都会館美術館前」
下車徒歩約5分

■ 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

■ お車でお越しの場合、岡崎公園駐車場(地下を
ご利用の有料入館者は駐車場の割引(1台1人)を
受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。

■ 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分
■ お車でお越しの場合、岡崎公園駐車場(地下を
ご利用の有料入館者は駐車場の割引(1台1人)を
受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。



「当日」一般=1500円、大学生=1100円、高校生=700円
「前売」一般=1300円、大学生=900円、高校生=500円
「団体」一般=1100円、大学生=800円、高校生=400円
■ 団体は20名以上 ■ 本料金でコレクション展もご覧いただけます。
■ 中学生以下および障がい者手帳等をお持ちの方とその付添者(1名は無料。
入館の際に証明できるものを提示ください。)

前売券はチケットぴあ「Pコード764159」/ローソンチケット「Lコード55069」ほか
主要プレイガイドコンビニエンスストアなどで販売 販売期間 1月17日—5月15日

東京国立近代美術館 2011年5月31日(火)—7月31日(日)

映画上映会

NFC所蔵作品選集

MOMAK Films@home

スイス映画特集

4月23日「土」13:30開場

14:00—15:15「魂を失くす男」監督：ウルナ・ホセ・バウム 36分

15:35—17:31「山の焚火」監督：フレデリック・ムレー 85分

14:00—15:35「ローズヒルの女」監督：フランテス・カス 89分

15:55—17:24「イカれたロミオに泣き虫ジュリエット」監督：アントニオ・マンナ 86分

全作品35ミリ・日本語字幕付

会場「京都国立近代美術館1階講演室」

料金「プログラム500円」当日券のみ「先着100席

主催「京都国立近代美術館、東京国立近代美術館フィルムセンター」

京都国立近代美術館
http://www.momak.go.jp
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
お問合せ「075-761-4111」(火)
テレホンサービス(展覧会のご案内)
075-761-9900
展覧会ウェブサイト
http://klee.exn.jp